

月の道

静かな部屋に母を残し 坂を下る

黒い山がざわめく

後ろから 右から左から

私の綻びを 傷んだ穴を ぞわぞわと撫でる

否、否、否、是 ああそれが私だ

木のように草のようになりゆく母を残し

祈りだけを守りに

坂を下りる

空にも穴があいている

その光を辿って 家に帰ろう